

施設機能毎の今後の方向性案(まとめ)

機能名	今後の方向性		取り組みの時期		
	総括	取り組み	短期	中期	長期
庁舎・窓口施設等	集約化により建物の総量を圧縮する一方で、維持する建物については、複合化・多機能化や長寿命化により地域拠点としての機能強化を図る。	・施設が担うべき機能やサービス提供のあり方等を検討する。 ・コンビニエンスストアでの証明書発行機能を拡大し、連絡所と市民センターの集約や廃止を含めた配置と機能のあり方を検討する。 ・建物の長寿命化に向けた大規模改修等を計画的に実施する。 ・行政サービスや職員数の減少に応じて空いたスペースは、適宜他の用途に転用して有効活用する。	・施設が担うべき機能やサービス提供のあり方等を検討する。〔行政経営改革プラン〕 ・市民センター及び連絡所の施設ごとの方向性※を決定する。 ※再編対象施設及び再編時期の決定を含む。 ・短期及び中期の再編対象施設の再編に向けた検討・準備を進める。 ・短期の再編対象施設の再編を実施する。 ・市庁舎内の用途見直しによる有効活用を図る。〔継続〕	・中期の再編対象施設の再編を実施する。 ・長期の再編対象施設の再編に向けた検討・準備を進める。	・長期の再編対象施設の再編を実施する。
文化ホール施設	集約化により建物の総量を圧縮する一方で、建物の長寿命化や民間ノウハウを効果的に取り入れ、施設の一層の有効活用等により、文化芸術に関する活動の場の維持や活性化を図り市の魅力を向上させる。	・民間ノウハウを活かした管理運営により、収益性の向上を図る。 ・会議室などの利用率の低い機能は、転用等を含めた見直しを行う。 ・建物の長寿命化に向けた大規模改修等を計画的に実施する。	・収益性向上に向けた検討を実施する。〔継続〕 ・施設内一部の転用を含めた活用の検討を実施する。〔継続〕 ・町田市民ホールの大規模改修に向けた検討及び調整を進める。	・町田市民ホールの長寿命化に向けた大規模改修を実施する。	
集会施設	集約化や複合化・多機能化により建物の総量の圧縮や地域の活動拠点の強化を図るとともに、管理運営手法等の見直しを実施することで、新たな交流や活動の場を維持し、豊かで持続可能な地域社会づくりを進める。	・利用率の低い夜間帯の施設利用のあり方を検討する。 ・集会機能及び集会機能と類似する機能の整理を行い、施設の集約または複合化を図る。 ・施設ごとのサービスのあり方や管理運営手法等を見直す。 ・公平かつ社会環境に適合した受益者負担の適正化を図る。	・施設ごとのサービスのあり方や管理運営手法等を見直す。〔行政経営改革プラン〕 ・学校等への機能移転を含め、施設ごとの方向性※を決定する。 ※再編対象施設及び再編時期の決定を含む。 ・短期及び中期の再編対象施設の再編に向けた検討・準備を進める。 ・短期の再編対象施設の再編を実施する。	・中期の再編対象施設の再編を実施する。 ・長期の再編対象施設の再編に向けた検討・準備を進める。	・長期の再編対象施設の再編を実施する。
図書館	集約化や複合化・多機能化により建物の総量を圧縮しつつ、地域の活動拠点に機能を移転することで、本に触れ親しむ機会や本を通じた交流の機会を増やす。また、市民等の活力を活かした図書に関連した新たなサービスにより図書に親しむ機会や場の充足を目指す。	・さるびあ図書館及び鶴川図書館は配置が近接している中央図書館及び鶴川駅前図書館へ集約を検討する。 ・複合施設でない地域館は周辺学校の大規模改修や建替えの時期を捉えて、複合化する。 ・効率的・効果的な図書館サービスの提供について検討する。	・さるびあ図書館及び鶴川図書館をはじめとする各地域館の方向性※を決定する。 ※再編対象施設及び再編時期の決定を含む。 ・効率的・効果的な図書館サービスの提供について検討を実施する。〔行政経営改革プラン〕 ・短期及び中期の再編対象施設の再編に向けた検討・準備を進める。 ・短期の再編対象施設の再編を実施する。	・中期の再編対象施設の再編を実施する。 ・長期の再編対象施設の再編に向けた検討・準備を進める。	・長期の再編対象施設の再編を実施する。
美術館・博物館等	集約化や複合化・多機能化により建物の総量圧縮や施設の魅力の向上を図る。また、アウトリーチ展示等により文化や芸術に触れる機会を増やす。	・町田市の文化や歴史を伝える資料は、収蔵品を整理しつつ、収蔵庫については既存施設を活用して集約化を図り維持管理コストを削減する。また、展示スペースの集約化を検討するとともに展示機能の魅力向上を図る。展示については施設間協力などすすめ、アウトリーチ展示も検討する。 ・国際版画美術館及び(仮称)国際工芸美術館は、他施設からのアウトリーチによる展示などの受け皿として活用を検討する。	・国際版画美術館と2022年度開館予定の(仮称)国際工芸美術館の効率的・効果的な管理体制を確立する。〔行政経営改革プラン〕 ・博物館にある工芸品は(仮称)国際工芸美術館に移転し、その他の収蔵品については学校の教育活動で使用しない教室や既存の施設に保管し利活用する。 ・自由民権資料館は、効率的・効果的な施設運営手法の見直し策について決定する。〔行政経営改革プラン〕 ・町田市民文学館ことばらんどは、施設の存廃を検討し、存続する場合には、効率的・効果的な施設運営手法の見直し策について決定する。〔行政経営改革プラン〕 ・町田市民文学館ことばらんどは、集会機能については、中心市街地における集会機能の再編と合わせて整理する。 ・本町田遺跡公園や園内の多目的施設は、ひなた村との連携など活用の検討を行う。 ・町田市の文化や歴史を伝える資料の展示機能については、既存施設でのアウトリーチ展示も検討する。〔継続〕	・町田市の文化や歴史を伝える資料は、収蔵品を整理しつつ収蔵庫の集約化及び展示スペースの集約化を図り、機能を移転させた施設の建物の建替えは行わない。 ・維持する施設については、建物の長寿命化に向けた大規模改修等を計画的に実施する。	
生涯学習施設	施設の複合化・多機能化を図ることや特定用途に限定された施設の廃止により建物の総量を圧縮する一方、既存施設の活用をはじめとした地域での事業展開により、身近な場所で生涯学習に触れられるようになる他、市民が学習を通して得た知識や技能を地域で活かすことで、地域の活力が生まれる。	・地域での事業展開を強化し実施する。 ・生涯学習センターは生涯学習機能だけではなく、中心市街地における集会機能としての役割も大きいことから、学習活動に限定しない施設として再編を検討する。 ・市民大学の陶芸教室は終了を検討する。	・生涯学習センターの役割や事業内容を再検討する。〔行政経営改革プラン〕 ・民間活力の導入等、管理運営手法の見直しを実施する。〔行政経営改革プラン〕 ・地域での事業展開を強化し実施する。〔継続〕 ・生涯学習センターへ集会施設機能を付加する。 ・市民大学陶芸教室の方向性を決定する。〔行政経営改革プラン〕		
学校	学校施設の適正な維持・管理のため建物の長寿命化や計画的な建替えを実施する。また、児童生徒数の減少に対応した学校の適正規模・適正配置を行うことにより、建物の総量圧縮を図る。さらに、学校施設の有効活用や他機能との複合化・多機能化等により多様な人々が交流し活動する場を創出し、愛着ある地域拠点施設とする。	・建物の大規模改修や建替えを計画的に実施する。 ・段階的に必要な適正規模・適正配置を実施する。 ・教育活動で使用しない教室数の状況や建物の大規模改修・建替えの時期を捉え、周辺の公共施設等の複合化を実施する。 ・教室の未利用時間の積極的な活用を図る。	・中期の建替え費用の平準化のため、長寿命化が可能な建物の大規模改修を実施するとともに、周辺の公共施設を複合化する。 ・中期に実施する具体的な適正規模・適正配置の案を策定する。 ・教育活動で使用しない教室や教室の未利用時間の積極的な活用を図る。〔継続〕 ・民間施設のプールの活用等によるプールの集約を検討する。	・適正規模・適正配置により統廃合を進め、大規模改修と建替えを実施するとともに、周辺の公共施設を複合化する。〔継続〕	
高齢者福祉施設	地域の活動拠点となる施設へ機能を移転することで、建物の総量圧縮を図るとともに、身近な場所でより多くの人がサービスを受けられる機会を増やす。	・高齢者の居場所づくりの地域展開や健康づくり等各種講座について、市民センターや学校等の地域の活動拠点での実施を図る。 ・高齢者専用施設は建物の建替えは行わない。	・効率的・効果的な施設運営手法の見直し策について検討および決定する。〔行政経営改革プラン〕	・高齢者の居場所づくりの地域展開や健康づくり等各種講座について、市民センターや学校等の地域の活動拠点での実施を図る。 ・高齢者専用施設は建物の建替えは行わない。	
障がい福祉施設	市有財産の活用のほか、民間によるサービス提供の活用や民間への移行等により建物の総量圧縮を図りつつ、公共の福祉施設に限らず障がいのある人となない人がともに育ち、働き、暮らすことができる場を維持していく。	・施設の譲渡を含め、民間活力の活用策を検討する。また、民間の運営する施設への代替性がある施設については廃止する。	・ひかり療育園は、施設の民間活力の活用策を検討する。〔行政経営改革プラン〕 ・グループホームは、代替性があるため建物は建替えない。 ・せりがや会館は必要な一部機能を他施設へ移転し、建物は建替えない。 ・町田ダリア園、町田リス園は、観光施設としての機能も持つため、町田薬師池公園四季彩の杜魅力向上計画と合わせて活用を検討していく。 ・木曽福祉サービスセンターは、機能を廃校や他の公共施設に複合化し、建物の建替えは行わない。	・維持する施設については、大規模改修や建替えを行う。〔継続〕	
保健施設	集約化や市有財産等の効果的な活用により建物の総量圧縮や施設利便性の向上を図る。	・診療所の区画外を、診療所の事業に支障のない範囲で有効活用する。 ・建物の建替え時期を捉えて、健康福祉会館と保健所中町庁舎を集約化する。 ・施設の新たな有効活用による、健診事業等の地域での実施拡大を検討する。	・診療所の区画外を、診療所の事業に支障のない範囲で有効活用する。 ・健康福祉会館と保健所中町庁舎の集約化に向けた検討・調整を進める。 ・健診事業等の出張実施拠点の拡大を検討する。	・健康福祉会館と保健所中町庁舎の集約化を実施する。	
保育園・児童発達支援センター	複合化・多機能化により建物の総量を圧縮しつつ他機能との連携をさらに深めることでより魅力的な場づくりや充実した支援を行う。	・保育園は必要な施設規模に見直し、周辺の学校等の大規模改修や建替えの時期を捉えて、条件が整ったところから複合化する。 ・建物は単独機能での建替えは行わない。 ・すみれ教室は、事業内容と連携しやすい他の公共施設と複合化する。	・保育園は中期で複合化する際の必要な施設規模を検討する。 ・すみれ教室は、認可通園部門の管理・運営手法を見直す〔行政経営改革プラン〕	・保育園は周辺の学校等の大規模改修や建替えの時期を捉えて、複合化する。〔継続〕 ・すみれ教室は、事業内容と連携しやすい他の公共施設と複合化する。	
子どもセンター・子どもクラブ	複合化・多機能化や市有財産等の活用により建物の総量を圧縮する一方、他機能との連携をさらに深めることで、子どもの地域への愛着を育む健全育成と乳幼児の子育て支援の場の維持や魅力の向上を図る。	・子どもセンター・子どもクラブの役割を明確化しながら、子どもを中心とした様々な交流と協働による魅力的な体験活動を展開できるようなサービスのあり方を検討する。 ・子どもセンターは中長期的には周辺の公共施設の更新時期を捉えて複合化し、単独での建物の建替えは行わない。その際、児童が自由に来館し、遊べる環境の確保、セキュリティへの配慮、乳幼児の保護者も利用しやすいようにつくりに留意する。 ・子どもクラブの増設は新たな建物を建てる方法だけでなく、他の公共施設の転用や既存スペースを有効活用することを検討する。また、今後の年少人口の減少を踏まえて、整備費用やその後の維持管理費用が少ない手法や建物の可変性等の工夫を検討する。	・子どもセンター・子どもクラブの役割を明確化しながら、新たな出会いの場や魅力的な体験の提供ができるようなサービスのあり方を検討する。 ・子どもクラブの増設は新たな建物を建てる方法だけでなく、他の公共施設の転用や既存スペースを有効活用することを検討する。また、今後の年少人口の減少を踏まえて、整備費用やその後の維持管理費用が少ない手法や建物の可変性等の工夫を検討する。	・子どもセンターは周辺の公共施設の大規模改修や建替えの時期を捉えて複合化し、単独での建替えはしない。その際、子どもが自由に来館し、遊べる環境の確保、セキュリティへの配慮、乳幼児の保護者も利用しやすいようにつくりに留意する。〔継続〕	

機能名	今後の方向性		取り組みの時期		
	総括	取り組み	短期	中期	長期
学童保育クラブ	地域の拠点となる学校に複合化・多機能化することで、建物の総量圧縮を図る他、学校施設の活用により多様な活動が可能となり、魅力が向上する。	・保育スペースが不足する学童保育クラブを拡張する際や、学童保育クラブや小学校の大規模改修等の時期を捉えて、校舎内に複合化し、建物は単独機能での建替えは行わない。	・放課後に使用しない教室等を利用する際に必要になる運用のルールや施設整備の内容等を検討する。 ・スペースの拡大が必要な学童保育クラブを拡張する際や、学童保育クラブや小学校の大規模改修等の時期を捉えて、校舎内に複合化し、建物は単独機能での建替えは行わない。[継続]		
スポーツ施設	集約化や市有財産等の活用により建物の総量を圧縮しつつスポーツ活動の場や機会を確保し、民間ノウハウを効果的に取り入れることでさらなる魅力向上や運営の効率化を図る。	・建物の長寿命化に向けた大規模改修等を計画的に実施する。 ・利用料金の見直しや、民間ノウハウを活かした管理運営等により、収益性を向上させる。 ・学校等の既存施設や遊休地の効果的な活用を図る。	・収益性向上に向けた対策を検討し実施する。[継続] ・学校等の既存施設や遊休地の効果的な活用を図る。[継続]	・体育館の個人・団体利用の機能を各学校体育館に分散化する。 ・施設の利用状況等を鑑みて、施設の集約化を検討する。	・建物の長寿命化に向けた大規模改修等を計画的に実施する。
レクリエーション・観光施設	事業の見直しや複合化・多機能化等により建物総量の圧縮を図る一方、民間や市民等の活力によりさらなる魅力向上や運営の効率化を図る。	・自然休暇村は収入源確保の取り組みを進める。 ・大地沢青少年センター土砂災害特別警戒区域への指定及び施設老朽化を踏まえ、躯体自体(ハード)及び実施事業(ソフト)の両面から事業を見直す。 ・ひなた村は役割を再検討し、事業を見直す。施設の管理運営については、民間活力の導入や、市民との協働等の手法の検討を進めるなど、新たな付加価値を創出するとともに、効率的な運営を行う。 ・ひなた村のホールなどの集会機能は、周辺の学校の大規模改修や建替えの時期を捉えて複合化し、建物の建替えは行わない。 ・七国山ファーマーズセンターは、町田薬師池公園四季彩の杜魅力向上計画に沿い、民間のノウハウを活用することを含め運営方法を検討する。 ・市民農園の休憩室や倉庫は、附属施設として活用をする。 ・小野路宿里山交流館は、適切に維持管理する。 ・集客施設の建替えや新たな施設整備等をする場合は民間による手法を導入する。	・自然休暇村は収入源確保の取り組みを進める。 ・大地沢青少年センターは、土砂災害特別警戒区域への指定及び施設老朽化を踏まえ、躯体自体(ハード)及び実施事業(ソフト)の両面から事業を見直す。[行政経営改革プラン] ・ひなた村は役割を再検討し、事業を見直す。施設の管理運営については、民間活力の導入や、市民との協働等の手法の検討を進めるなど、新たな付加価値を創出するとともに、効率的な運営を行う。[行政経営改革プラン] ・七国山ファーマーズセンターは、薬師池公園四季彩の杜魅力向上計画に沿い、民間のノウハウを活用することを含め運営方法を検討する。	・ひなた村のホールなどの集会機能は、周辺の学校の大規模改修や建替えの時期を捉えて複合化する。	
産業系施設	事業の見直し、複合化・多機能化、さらなる民間活力の導入により施設総量の圧縮を図る他、さらなる収益の増加や運営の効率化を図るとともに賑わいや交流を創出する。	・町田新産業創造センターの建物を建替える際には、民間活力の導入を進めるとともに、他の産業支援機能等と複合化する。 ・プラザ町田(町田市文化交流センター)は、中心市街地全体の貸し会議室機能の需要動向を見ながら、廃止も含めた抜本的な見直しを行い、収益増加を図る。 ・町田ターミナルプラザは、空き店舗の用途変更も含めた活用や観光バスの利用台数に見合った運営体制の構築など収支のバランスを取る。建替えの際には、民間活用を含めた検討を行う。	・町田新産業創造センターの建物を建替える際には、民間活力の導入を進めるとともに、複合化する。 ・プラザ町田(町田市文化交流センター)は、中心市街地全体の貸し会議室機能の需要動向を見ながら、廃止も含めた抜本的な見直しを行い、収益増加を図る。[継続] ・町田ターミナルプラザは、空き店舗の用途変更も含めた活用や観光バスの利用台数に見合った運営体制の構築など収支のバランスを取る。建替えの際には、民間活用を含めた検討を行う。[継続]		
防災施設	災害から市民の生命を守るための施設として、適切に維持していくために長寿明化する。既存施設を有効に活用することで不足する防災施設を充足する。	・建物は耐用年数まで利用できるよう、必要な施設修繕を計画的に実施し、適切な建替えを行っていく。 ・不足する防災施設は、他の公共施設の余剰スペースや民間倉庫等を活用して確保する。	・建物は耐用年数まで利用できるよう、必要な施設修繕を計画的に実施し、適切な建替えを行っていく。[継続] ・不足する防災施設は、他の公共施設の余剰スペースや民間倉庫等を活用して確保する。[継続]		
その他集会施設	地域の自主的な維持管理に移行することで、町内会・自治会が所有する集会施設と同様に、効果的・効率的な運営を目指す。	・今後の施設の修繕や建替えの方向性について、地域で検討及び判断し、地域で維持管理していく。また、その実現のための支援の方法を検討する。	・地域で施設の建替えを実施する場合を除き、建替えは行わない。[継続]		
その他展示等施設	文化財は適切に維持保全していく一方、その他の展示施設は市有財産の活用により建物の総量を圧縮する。	・建物は、町田薬師池公園四季彩の杜魅力向上計画に沿い、転用・活用する。貸し展示スペースは他施設で代替し、建替えは行わない。 ・旧家は適切に維持保全していく。	・フォトサロンは、町田薬師池公園四季彩の杜魅力向上計画に沿い、建物を転用・活用する。 ・旧家は適切に維持保全していく。[継続]		
その他教育施設	市有財産として積極的な活用を図ることで、新たなサービス機能を提供する場や収入源とする。	・教育センターは利用面積を圧縮し、空いたスペースを現在行っている主な事業と親和性のある他機能の受け皿として利用する。複合化する機能が無い場合は、大規模改修や建替えの際に施設規模を縮小する。 ・旧忠生第六小学校は民間活力による効果的効率的な施設活用を検討する。	・教育センターは大規模改修までに必要な機能とスペースを見直す。 ・大規模改修の時期を捉えて、教育センター事業と親和性のある他機能を複合化する。複合化する機能が無い場合は、必要な棟のみ大規模改修をする。 ・旧忠生第六小学校は民間活力による効果的・効率的な施設活用を検討する。		
医療施設	市民の生命を守るための施設として、効果的かつ適切に維持していく。	・建物の長寿命化に向けた大規模改修等を計画的に実施する。 ・建物の改修や建替えの際はPFI等の手法導入を検討し、施設整備にかかる費用の削減を図る。	・建物の長寿命化に向けた大規模改修等を計画的に実施する。[継続] ・建物の改修や建替えの際はPFI等の手法導入を検討し、施設整備にかかる費用の削減を図る。[継続]		
その他高齢者福祉施設	民間によるサービス提供への移行や、複合化・多機能化、市有財産の活用等で建物の総量圧縮を図る。	・デイサービス、在宅サービスセンターは、賃貸借化、譲渡等を含めたあり方を検討する。 ・わくわくプラザと成瀬あおぞら会館は、他の公共施設と複合化し単独機能での建替えは行わない。	・デイサービス、在宅サービスセンターは賃貸借化、譲渡等を含めたあり方を検討する。 ・わくわくプラザと成瀬あおぞら会館は、他の公共施設と複合化し単独機能での建替えは行わない。		
市営住宅	適正かつ効率的な維持管理を行い、建物の大規模改修や建替えの際は、社会状況に合わせた更新をする。	・建物の大規模改修や建替えの際は人口や低額所得者数の動向に合わせて施設を適正な規模に縮小する。			・ 建物の大規模改修や建替えの際は、人口や低額所得者数の動向に合わせて、施設を適正な規模に縮小する。
供給処理施設	生活に必要な施設として、効果的かつ適切に維持していく。	・町田リサイクル文化センターの建替えは、DBO方式(公設民営)により、民間事業者のノウハウを活用し、運営費用の軽減等や更新費用の低減を図る。 ・資源ごみ処理施設の整備は、公設公営により用地の取得や関連事業との調整を行い2地区(上小山田地区、相原地区)で施工する。 ・プラントや建物の維持管理を適切に行い、長期的な観点でコストダウンを図る。	・町田リサイクル文化センターはDBO方式(公設民営)で建替える。 ・新たに分散整備する資源ごみ処理施設は、公設公営で整備する。 ・剪定枝資源化センターは、2022年で借地期間が切れることから今後のあり方について検討する。 ・南収集事務所は、2022年で借地期間が切れることから今後のあり方について検討する。 ・排水浄化センターのプラントの更新の際には、処理量に見合った大きさの施設に建替える。 ・境川クリーンセンターのし尿処理施設は、今後のし尿処理事業に見合った施設として移転改修を進める。 ・境川クリーンセンターの旧管理棟は、多機能の受け皿として活用する。単独機能での建替えを行わない。	・町田リサイクル文化センターについては、運営事業終了時に向けた調整及び方向性の検討を開始する。 ・施設の長寿命化のための施設保全計画を策定し、プラントや建物の維持管理を適切に行い、長期的な観点でコストダウンを図る。[継続]	
下水道施設	人々の暮らしや衛生環境の確保に直結する施設として、効果的かつ適切に維持していく。	・資金を計画的に確保し、施設の維持のために必要な改修や修繕を行っていく。 ・運営のコスト削減に向けて、アセットマネジメントを着実に実行する。 ・建物の大規模な改修や建替えの際はPFI等の手法導入を検討し、施設整備にかかる費用の削減を図る。	・資金を計画的に確保し、施設の維持のために必要な改修や修繕を行っていく。[継続] ・運営のコスト削減に向けて、アセットマネジメントを着実に実行する。[継続]		
駐車場・自転車等駐車場施設	さらなる民間活力の導入により効果的かつ需要に見合ったサービス提供を行う。施設更新の際は、土地の貸し付け、整備、長期の維持管理まで含めた民間活用を検討する。	・運営費のコストダウン及び収益増加を図る。 ・施設更新の際は、土地の貸し付け、整備、長期の維持・管理まで含めた民間活用を検討する。 ・市で建替えをする際には、需要に見合った延床面積とする。	・運営費のコストダウン及び収益増加を図る。[継続] ・施設更新の際は、土地の貸し付け、整備、長期の維持管理まで含めた民間活用を検討する。[継続] ・市で建替えをする際には、需要に見合った延床面積とする。[継続]		